

アジア成長研究所(AGI)外部評価結果 (評価対象年度 平成26年度)

5=大変評価できる 4=評価できる 3=普通 2=あまり評価できない 1=全く評価できない (目的評価の評価点は実績評価点の評価者別の平均点(四捨五入))
 ※評価者と評価内容及び評価点の順序は不規則になっており関連性はありません。

区分	評価項目	評価内容	評価点	評価平均点		
目的評価	A のし(強、1化本)と市高発の展国に際ア貢水ジ献準アしの研た知究的を基推盤進	<ul style="list-style-type: none"> 計画通り素晴らしい実績を残しており、国内外の研究者からも非常に高い評価をえている。また、研究テーマも、アジアおよび北九州にとって非常に重要なものが選ばれており、学界への貢献も大きい。 資料によると非常に活発に活動していることがうかがえ、内容的にも高度なレベルにあると考える。 成果指標に対する目標は、いずれも達成しており評価できる。今後は、学術的な研究を中心としながら、より一層北九州市の政策立案に資するような実践的な研究と市への提言が望まれる。 研究及び研究会の開催、海外研究機関との協力・連携など、さまざまな観点から活動しており、その実績はいずれも成果指標を上回っている。いわば高度なアジア研究を推進するという研究機関としての役割は十分に果たしているといえる。今後はAGIのコアコンピタンスを見出し、充実強化することで、ニッチトップを目指すことが望まれる。 著名な学術雑誌に掲載されていること、RePEcで第11位にランクされていることから、高度なアジア研究を推進していると評価できる。しかし、本市の国際水準の知的基盤に結びつけるためには、北九州の活性化につながる政策提言型の研究をさらに強化する必要があるのではないか。 	4	4.6		
			5			
			5			
			5			
			4			
	B 成(長2戦)略研に究を献通じてた本。市の	<ul style="list-style-type: none"> 様々な分野からの著名人を講師に招いて開催されている「成長戦略フォーラム」は、参加者の数もさることながら市民からの評判もよく、北九州市の発展に寄与していることがうかがえる。 北九州空港の有するポテンシャルに着目し、集中的に物流シンポジウム、空港の将来ビジョンの研究・提言を行った点は、北九州市の成長戦略にも取り入れられており、十分評価できる。 様々な場を通じて、政財界、メディア、市民等に対して適切かつ有益な情報発信をしている。学界での高い評価は、北九州市のレピュテーションを高めることにもつながっている。 成長戦略フォーラムにおいて、一流の講師陣を揃え、連続して開催することの意義は大きい。ただ、市民向けにするのであれば、もう少しやわらかいテーマ、例えば、文化や歴史に関する講演会もあっていいかもしれない。 成長戦略フォーラムをはじめると、地域貢献を果たそうとする姿勢は高く評価できるが、緒に就いた感否めない。企業及び行政機関は、AGIに対して何を期待しているのか、またAGIは何ができるのか、再考する時期にきているのではないかと思われる。またそのプロセスを経て、成果指標を見直す必要がある。 	5	4.2		
			4			
			5			
			3			
			4			
区分	評価項目	評価内容	目的評価A 評価点	目的評価B 評価点	目的評価A 平均点	目的評価B 平均点
実績評価	① 成果 指標 実績	<ul style="list-style-type: none"> 設定された数値目標を達成している。 目的評価項目A、Bともにすばらしい達成率である。(87.5%~100%) 設定した数値目標を全て達成している。 アジア研究については、限られた陣容のもとで量・質ともに十分できており高く評価できる。一方、地域貢献においては、成果指標の目標値がそもそも低すぎるように思われる(例えば、市政・企業活動に関する調査研究数、市の政策委員会等への参画数)。 	5	5	5	4.6
			5	5		
			5	5		
			5	3		
			5	5		
	② ウ活ト動平ブ報成ツ書26内(年容A度)GAI	<ul style="list-style-type: none"> 基本プロジェクト、環境エレクトロニクス研究、受託、請負プロジェクト事業ともに良く研究されている。また、研究報告書、市民向け講座の充実が図られている。 十分な実績を残していると評価できる。研究テーマの選び方も適切である。 アジア研究については、研究に止まらず、さまざまな視点から取り組んでおり、大変評価できる。一方、地域貢献については、政策提言に止まっており、実行に移す、具体的な一歩が足りない(いくら効果的な政策であっても、実行されなければ意味がない)。 研究活動としては十分であるが、研究テーマの設定に当たっては、北九州のニーズにあったテーマを増やす余地はないか。 現状の要員と予算では、やむを得ないが、総花的な面もあり今後の課題でもある。テーマの絞込みと実践的な活動(アウトプット)が望まれる。 	4	5	4.6	4.2
			5	4		
			5	5		
			5	3		
			4	4		
	③ 部ラ評ンそ 価キの他 委員グ(他 評、R 価A 結G P 果I E 外) c	<ul style="list-style-type: none"> 並み居る強豪を相手に173機関中11位というすばらしい成績を残しており、ハイレベルであることがうかがえる。 RePEcランキングが第11位であり、学術的に非常に高いレベルであると判断される。なおBについては、同ランキングとの関連性(因果関係)が分からない。 RePEcにおけるAIG国内順位が11位というのは、大学以外の研究機関としては卓越している。ただ、このことが市の成長戦略とどのようにつながるかは、評価が不可能(設問自体があまり適切でないとの印象)。 研究所外での講演等の活動が特定の研究者に限られているような印象がする。 173機関中11位に入っている点は評価できる。ただ、論文発表者が5名と他のトップ研究機関と比べ、著しく少ない点は予算の限界なのか? 	4	5	4.6	3.8
			5	4		
			5	3		
			5	-		
			4	3		
	④ 定ラム 、ム ア成長 の成 ケテ戦 ー略 トマフ 結設オ 果	<ul style="list-style-type: none"> テーマおよび講演者の選び方は適切で、バランスもとれている。参加者の満足度も総じて高い。 アンケート結果で92%が「良い」と評価しているのでテーマ設定も適切だったと思われる。今後、市民の注目度が高まり、参加者が増える期待が大きい。 成長戦略フォーラムにおいて、一流の講師陣を揃え、連続して開催することの意義は大きい。ただ、市民向けにするのであれば、もう少しやわらかいテーマ、例えば、文化や歴史に関する講演会もあっていいかもしれない。 アンケートの結果、「良かった」「まあまあ良かった」の割合が92%であり、評価できる反面、地域貢献の主体である「企業」「行政機関」の出席者の割合が50%に止まっている(70%くらい欲しい)。 着実にフォーラムを実施しており、参加者の評価も非常に高い。 		4		4.6
				5		
				5		
				4		
				5		
⑤ マA 設G 定I のメ のデ 会イ ーの とテ 	<ul style="list-style-type: none"> 北九州市に関するテーマ選定をより重点に行えば大きな成果が期待される。また、今後ともメディアとの会合をもち、積極的に情報発信をしていただきたい。 メディアと定期的に研究会を開催することは重要。しかしそのわりには、新聞等に取りあげられる回数が少ないように思う。マスコミが記事にしたいような研究内容や発表の仕方について検討の余地はないか。 「メディアとAGIの会」の具体的な内容はよく承知していないが、テーマは概ね適切である。 本市が抱える課題をテーマとして設定しており、評価できる。一方、マスコミから得られたさまざまな示唆がどういったかたちでAGIの地域貢献活動にフィードバックされたのかが分からない。 MAGI会、セミナーともに、十分な活動がうかがえる。 		4		3.8	
			4			
			4			
			4			
			3			
⑥ デ員動 イ、状所 ア研況員 コ修への メ講審外 ン師議部 ト、会 等メ 等活	<ul style="list-style-type: none"> 大学講師、市の審議委員会への出席など、少人数でよく活動している点は評価できる。 八田所長を中心に、重要な会議等の役職を務められているほか、北九州市の政財界等に対しても極めて様々な場を通じて有益な情報発信をしている。 理事長、所長自ら各研究機関、大学等へ出向き活発に活動している。 大半が所長をはじめとする上位者によるものであり、一般研究員の活動が少ない。とくに審議会等は地域の課題を知るよい機会となり、地域貢献活動の源泉になることから、積極的な参画を期待したい。 研究所外での講演等の活動が特定の研究者に限られているような印象がする。 		4		3.6	
			3			
			5			
			2			
			4			

総
評

・八田所長の強いリーダーシップのもと、非常に質の高い研究成果を達成しており、この点はRePEc等の評価にもつながっている。また、高い研究評価は、北九州市のレピュテーションを高め、ひいては市の国際的な競争力を高めることになると考えられる。

市民に対しても、「成長戦略フォーラム」や各種会合・講演会などを通じた情報発信により、重要な問題提起をしている。このことは、北九州市の課題の認識、およびその解決に向けての議論の底上げにつながっていると思われる。

今後とも、引き続き質の高い研究・調査を継続するとともに、市民に対する適切な問題提起を続けていただきたい。また、北九州市におかれては、アジア成長研究所とより有機的な連携を強め、市の各種施策の企画・立案につなげていただきたい。

・研究所設立時のビジョン・コンセプトの中でも、北九州市の成長戦略、国際水準の知的基盤の強化と発展への貢献に期待が高まっており、メンバーもその点を充分認識して取り組んでいる事は評価できる。

学術的レベルはトップクラスであり、北九州市の成長戦略実現のために、シンクタンクとしての役割を踏まえ期待に応えるべく、より一層、提言・提案を望みたい。経済界・メディア等との意見交換等の機会を利用して、現場の実態を生レベルで把握すれば研究遂行に役立つのではないだろうか。また、そのためには協力を惜しまない。

・個人的には、研究機関の調査、研究は実践においてはあまり役に立たないと考えているが、アジア成長研究所における「成長戦略フォーラム」は学術経験者だけでなく、市民・企業人からも講師を招いており、実践に即した話が聞ける上でも評価に値する。今後は、さらに学術と実践の融合を求めていくことに期待する。

・アカデミックな研究と実社会のニーズにあった研究を両立させることの難しさを感じた。

環黄海経済圏の研究をしている頃は、大学の先生、行政、企業が同じ問題意識をもって調査研究していたように思う。

日中韓の関係が難しくなるなかで、北九州市の役割は大きいと思われるので、研究テーマの設定いかんでは、AGIの割合はさらに重要性を増すと考える。

・AGIには、高度なアジア研究を行う「研究機関」としての役割(以下A機能)と、北九州市の発展に寄与する「シンクタンク」としての役割(以下B機能)が求められている。

一般に、組織に求められる役割は時代の変化とともに変わり、柔軟に対応していく必要がある。IOSEADとして設立した当初、AGIの主たる役割はA機能であった(と思われる)が、近年本市においては、高齢化や人口減少、既存企業の高度化などさまざまな課題を抱えており、さらに国を挙げて地域創生が叫ばれる中、その役割はB機能へと大きくシフトしている。

現在、シンクタンクと呼ばれ、顕著な成果を上げている機関の多くは政策提言に止まることなく、「ドウ(Do)タンク」として、政策実行までその機能を拡大している。また調査研究もマーケットインに徹し、その結果は即効性や実効性が求められている。

こういった状況の中、AGIにおいても、これまで以上に地域貢献への期待が高まっており、所員(研究者)は研究結果の発表やセミナーの開催などに満足するのではなく、企業や行政機関などの関係者と協力して、課題解決に向けた実施計画を作成し、自ら先頭に立って実行していく必要がある。またそのためには、研究者はリサーチャーとしての役割に加え、プロデューサーやディレクターとして積極的に現場に行き、五感をフルに発揮して問題を発掘し、プロジェクトをまとめ上げることが期待される。

以上より、組織目標の転換による地域貢献活動の強化、またそれを担う研究員の質的变化を早期に実行する必要があると思われる。